

# 夢 塾 だ よ り

## ～ 甲子園 100 回記念大会 ～

(第 14 号) 平成 30 年 8 月 23 日



第 100 回目の記念大会となった今年の甲子園。大阪桐蔭の二度目の春夏連覇で幕が下りましたが、記念大会にふさわしい盛り上がりでした。準優勝の秋田県立金足農業高校。「雑草魂」の全員野球は全国に勇気と感動を与えました。未来の輝く星となれとの願いで命名されたという、エース吉田輝星の躍動する姿はまさに輝く星でしたね。

彼、そして金足農業ナインの今後が楽しみです。

県代表の興南高校も 2 回戦で木更津総合高校に敗れましたが、1,2 年生がスタメンに多くいて、来年に期待が持てます。50 回大会では我喜屋主将でベスト 4、100 回大会では我喜屋監督で 1 回戦突破と歴史的巡り合わせの記憶に残る大会でした。福山雅治さんが作った「甲子園」歌詞も曲もすごくいいですね。

私は高校時代を西宮市で過ごしたので沖縄から甲子園に出場する高校のほとんどを球場で観戦しました。県人会の応援はすさまじかったです。長い間、名物応援団長として知られた糸数さん、尼崎のブラスバンドを率いた羽地先生。甲子園は私にとっても青春でした。

甲子園での球児たちの華々しい活躍の裏に、私は「ビルマの豎琴」という竹山道雄さんの本を読みました。映画化もされ、中井貴一さん演じる水島上等兵が僧になり豎琴を弾くシーンが忘れられません。それにもまして、彼が帰国する仲間にした手紙の一文に震えました。

「・・・いったいこの世には、何故にこのような悲惨があるのだろうか。何故にこのような不可解な苦悩があるのだろうか。この疑念に対しては教えられました。この「何故に」ということは、所詮人間にはいかに考えても分からないことだ。我らはただ、この苦しみの多い世界に少しでも救いをもたらす者として行動せよ。その勇気を持って。そうしていかなる苦悩・背理・不合理に面しても、なおそれにめげずに、より高い平安を身をもって証しする者たる力を示せ、と。このことがはっきりとした自分の確信となるよう、できるだけ修行をしたいと願っています・・・」

高校野球も日本が「平和」であることの象徴です。「平和」守り抜きましょう。